学校法人　名古屋石田学園
理事長・学園長　石田 正城

創立者「石田 鏇徳」生誕100周年

本学園創立者石田鏇徳先生は明治38年3月18日に御誕生になられ、昭和50年12月に69歳で逝去された。今年で生誕100周年となりました。

星城高等学校設立の構想が創立者石田鏇徳先生の頭の中に浮かんだ昭和34、5年頃、高校設立の構想と同時に大学設立構想や「自分は100歳まで生きる」という話題を度々、創立者から聞かされました。その当時の私は創立者の将来の夢、長生きしたいという意味に取っていました。

「天寿を全うする」という天寿とは120歳の寿命といわれます。早稲田大学の創立者大隈重信公は更に5年延ばし「人生125歳説」を唱えられ、「人間の精神の強さと高い志を持つことが生命の根本である」と訴えられ、シンボルの大隈講堂時計塔は125尺と言われています。

また、管仲の「管子」の中の言葉「一年之計、莫如樹穀、十年之計、莫如樹木、終身之計、莫如樹人」等々、先哲の教訓を知るにつけ、あの頃の創立者の胸中を察することができました。創立者は、自分の教育哲学・建学の精神を具現し、100年後に活躍している生徒の姿を思い描いておられたものと確信をするようになりました。

創立者は「開校当時の想い出」の中で「…私たちが日々生活していることは見えざる偉大な力、加えるに家庭、および社会から受ける恩恵があるからである。この事実を先ずもって厳粛裡に認め報謝の至誠を尽くすこと。教育は旧来の陋習（ろうしゅう）と惰眠の上に定着してはならない。日々新たに、その目標に向かって全身全霊を傾けた生活体験によって文化の創造に邁進すべきである。教育は広く高く、かつ深く研究することによって世界観の確立を期することである。本校はかかる目的のもとに…」と開校の旨を式辞で高らかに述べられています。

わが名古屋石田学園は大学をも設立し、形だけは整ったものの創立者の目指した建学の精神の具現・樹立にはまだまだ至ってはいません。

創立60周年にあたって、私は建学の精神をベースに「第二建学宣言」「①礼節・感謝、②自修的努力、③社会貢献」の教育理念を掲げています。

戦後60年、豊かな物質文明の陰で、精神の混迷化した現在の日本社会。21世紀に生きる青少年が真に幸福で平和な中で、家庭、地域社会、日本、そして、世界に貢献できうる能力を身に付けさせることこそ急務です。今こそ創立者のめざした100年後の人材育成の原点に帰って、建学の精神の高揚に努めなければなりません。

SEIJOH HIGH SCHOOL

特集 星城高

快適な学習環境

本学の第二建学宣言の一項目に、「自修的努力」があります。その自修的努力を支え、追求しやすい学習や学校の環境を考え、その整備を行いました。

南棟の普通教室は、第2東名道路を背景に眺望の良い明るい配置となっており、インターネットや学内LANも構築された学習環境となっています。このことでインターネットを活用した授業展開も可能となり、また生徒自身も休み時間や、授業後に大学等の進路などの検索が自由にできるようになりました。

図書館や、読書室も管理棟の4階・5階に配置され、自学自修に没頭できる環境が整備されるとともに、図書館の蔵書の活用やインターネットによる検索環境も整いました。

体育施設として、新たに柔道場、剣道場を兼ね備えた体育館（修徳館）も完成し、既設の体育館（明徳館・積徳館）に加え、3つの体育館が整い授業や、学校行事、部活動に利用できるようになりました。

学習面で、スポーツ面で、それぞれに「がんばり汗を流す」。それは自らが学ぶという自修的努力です。それに答える環境ができ上がりました。

アトリウム（全館吹き抜けの中央ホール）

修徳館（体育館）落成記念バスケットボール技術講習会で
指導する岩屋睦子（第24回生）（右）

等 学 校

「オンフルールの旧港」高橋文平 作（第1回生）

開放的なアトリウム

高くそびえる校舎、星城の二文字、開放的なアトリウム、明るい教室‥‥。すべての施設が完成するのは来春ですが、校舎棟は一足早く完成し、秋の新学期から活用します。新校舎のコンセプトは、「快適」、「安心・安全」をベースに明るい楽しい学習環境づくりとしました。

生徒の学習環境を重視し、普通教室はすべて南側の校舎棟に配置し、また、北棟の実習教室もアトリウムからの採光と北側からの採光で使いやすい教室となっています。職員室は学年制を採用し、管理棟の2階、3階にそれぞれ生徒との相談コーナーなどを配した余裕のある明るい快適な環境となっています。

校舎の特色は、なんといっても「アトリウム（吹き抜けのホール）」です。登校してくる生徒を毎朝この開放的なアトリウムが出迎え、明るく元気な気持ちを湧き立たせてくれます。このアトリウムを取り囲むように教室・廊下やギャラリーを兼ねた広い渡り廊下があり、休み時間には、生徒のいこいの広場となります。

調べ学習が出来る環境をもつ図書室。

最新の設備を整えた、最適な環境の情報処理教室。

北側から望む、校舎全景。

「星城美術館」

校舎の新設にあわせ、学校を文化の発信地と構想し、星城美術館を設けました。校舎を取り囲むようにその東西南北の各庭園に各種の彫刻を展示し、校舎内のアトリウムには各階にギャラリーを設け、絵画や彫刻、工芸品を随所に展示しています。在校生や訪れる方々に本物の芸術作品に触れて欲しいという思いをこめて開館しました。同窓生の作品を中心に、世界的な芸術家、郷土や学園ゆかりの芸術家の作品を数多く展示しています。今後このスペースを活用し、所蔵品を公開し、卒業生の作品展、個展なども開催していきたいと思います。

また、このアトリウムは今後、学園祭など生徒のいろいろな活動の発表の場や、地域の方々の交流活動、各種の行事など、多様な活用を図っていくコミュニケーション広場としていきます。

空間をぜいたくに使い、展示されている芸術作品。

中高一貫教育

6年間で学習面、人間形成面でどのような指導過程をとり、どのような人間に育てていくのかを常に考えています。

学習面では、英数国を中心に、学習指導計画とシラバスの充実に力を注ぎ、各学年での到達目標を明確にしています。目標と筋道を示す学習は、家庭学習や自主的な学習を促すナビゲーターとして働いています。

人間形成面では、行事を6ヵ年の発達段階に応じたものとし、適切な時期に実施しています。目標はこれまでの経験を生かして設定しております。

来年、開校15周年を迎えるにあたり、「確かな教育」が、6年後の大きな成長を約束できるよう、さらなる充実、新たな取り組みをしていきたいと思っております。

星城中学校校舎